

理事長 坂井一浩
義手適合判定検討委員会

浅見豊子, 大西謙吾, 大庭潤平, 須田裕紀, 妹尾勝利, 高橋功次, 戸田光紀,
中村喜彦, 増田章人, 浦田一彦, 東原孝典, 前野昭博, 柴田八衣子, 中村 隆

「能動義手適合検査表 日本版」 について

一般社団法人日本義肢装具学会では、義手適合判定検討委員会が、従来の能動義手適合検査に関する問題点の整理と検査基準値の検証を進め、新しい適合検査表(案)を作成し、昨年の本誌において経過報告をいたしました。この度、日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本作業療法士協会、日本義肢装具士協会、日本義肢協会の5団体の承認を得て、「能動義手適合検査表 日本版」が完成しましたので報告いたします。

この検査表は義手の処方から完成までの行程に合わせて以下の4段階の検査表(計9枚)で構成されています。

- 1) 身体機能検査表(前腕義手用, 上腕義手用) : 処方および部品選択を目的とするもの ; 各1枚, 計2枚
- 2) 義手検査表(前腕義手, 上腕義手共用) : 完成した義手の基本機能の確認と安全使用の保証を目的とするもの ; A, B, C の3つの形式の中から選択して使用する。各1枚, 計3枚
- 3) 義手装着適合検査表(前腕義手用, 上腕義手用) : ハーネスおよびケーブルシステムの装着時適合確認を目的とするもの ; 各1枚, 計2枚
- 4) 義手操作適合検査表(前腕義手用, 上腕義手用) : 切断者の操作能力確認と義手適合性の確認を目的とするもの ; 各1枚, 計2枚

検査表の使用にあたって

これらの検査表は、義手の仮合わせ時までに検査表1 および2 を用いて切断者の評価と義手本体の機能検査を行い、完成時に検査表3 および4 を用いて適合検査を実施することを想定しています。また、検査表3 および4 の検査において基準を満たさなかった場合、原因を明らかにするために検査表1 または2 を用いて検証することもできます。

なお、今回の適合検査表は検査表2 に示す前腕および上腕能動義手を標準的な義手として想定し、作成したものであり、すべての能動義手に対してこの基準を適用するも

のではありません。切断者の身体状況や使用する部品が異なる場合は、各検査において基準を満たさない場合や、検査自体が実施不可能な場合があります。各専門職におかれましては、その点を十分考慮して適合検査を実施してください。

各検査の実施方法につきましては、検査方法のマニュアルも編纂しております。マニュアルは近日発刊予定です。

検査表の著作権は一般社団法人日本義肢装具学会に属し、改変も禁止致します。他誌に転載の場合は、日本義肢装具学会誌編集部にて転載許諾申請を行って許可を得ていただきますようお願いいたします。

この「能動義手適合検査表 日本版」が、臨床や教育、能動義手製作などにおいて、広く活用されることを望みます。